

会 議 録

1 会議名

令和元年度 第9回諏訪区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 自主的審議事項

① 諏訪区内への移住促進策について

(2) 協議事項

① 地域協議会だよりの配布方法について

② 令和2年度地域活動支援事業 採択方針等の検討について

③ 地域協議会活動報告会について

3 開催日時

令和2年1月24日（金） 午後7時から午後8時30分まで

4 開催場所

諏訪地区公民館 集会室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・ 委 員：石黒太一、内山恵悟、内山松男、川上奈津子、川上久雄（副会長）、滝澤隆行、武田輝夫、西嶋明子、星野一巳（会長）、松縄節子、山岸 愛、山岸一之（欠席なし）

・ 事務局：中部まちづくりセンター 本間センター長、藤井係長、田中主事

8 発言の内容（要旨）

【藤井係長】

・ 会議の開会を宣言

・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【星野会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：石黒 太一委員に依頼

次第2 議題「(1) 自主的審議事項」の「①諏訪区内への移住促進策について」に入る。事務局より説明を求める。

【藤井係長】

- ・資料1、資料1-2に基づき説明

【星野会長】

今ほどの説明に質疑を求める。

(発言なし)

資料1-2「1 取組の背景」から「3 取組の結果」について協議する。そもそも諏訪区地域協議会にて移住促進を手がけた経緯・背景については、人口減少がある。35年後には住民の数が半分になってしまうと言われており、子どもたちの数が少なくなっているため、今後どうなるか分からないとの懸念がある。このデータに基づき、何とかしなければならないと考え、5年ほど前に中学生以上を対象としてアンケートを実施し、結果として様々な意見が出た。やはり人口を増やすために、何かしらの方策を進める必要があると考え、移住促進を推し進めるべく自主的審議の中で協議を行ってきた。アンケート結果には様々な意見があり、どれも大切なことではあったが同時に実施することは難しい。その中でも若者に定着、また他から移住してもらうことが、地域の活性化に繋がると思っている。また人口減少を少しでも遅くするために役立つのではないかと考えて進めてきた。その結果として、「移住促進諏訪の会」が発足された。意見を求める。

【川上副会長】

「移住促進諏訪の会」が発足して2年半ほどが経過した。会として立ち上がったが、会員の多くは地域協議会委員であり、あまり発展性がないような感じである。今後これを引き継ぐのかも課題ではあるが、新しい会員を募り独立したかたちで発展していけばよいと考えている。これまでも様々な会合にてよい意見等も出ている

が、出ただけで終わってしまっている。やはり専属で携わる人が必要だと思う。そのため、将来的には独立した会を正式に立ち上げ、もっと発展させるべきだと思っている。

【星野会長】

先日、諏訪小学校の校長先生、駐在、民生委員、町内会長、すわっ子クラブ、老人会、防災士会等、様々な団体関係者が50名ほど参加して、諏訪地区について「地区の良いところ」、「弱み・弱点」、「こんな地域になったらよい」といった内容にてグループワークを行い、いろんな意見を出し合った。その中で、中学生が最後のまとめを発表した。若い方が非常に興味を持って、積極的に参加してくれたことは本当にありがたいと感じた。今後、若者が大いに活躍でき、またU・Iターンとして諏訪地区に戻ってきて定住してくれたり、継いでくれる人がいてくれるとよいと感じた。グループワークには、小・中学生から高齢者の10代から80代の人に参加した。すべての世代にわたり諏訪地区について話し合うことができたため、非常に有意義な会議であった。主催は社会福祉協議会であったため、地域福祉が主体であったが、諏訪地区について話をするだけで一歩前進できると感じた。また諏訪区地域協議会として、どのように地域住民と関わりを持っていくのかについては、やはりいろんな世代の人と交流を持っていかなければ難しいと感じた。一つの団体とだけ話し合ってもなかなか話は進まないと思う。そういった意味で、先日のグループワークでは、中学生を含む各種団体の関係者全員が集まって話し合いができたため、本当に有意義な会議だったと思っている。この地域協議会もそういったところを目指していければよいと思った。

「移住促進諏訪の会」については、地域の人口減少という問題の解決を具体的な一つの目標に定めて発足した団体である。地域協議会委員を中心として立ち上げた実施団体であるため、結果を出して移住者・定住者に入ってもらうためにも、次期地域協議会の自主的審議の中に項目として入れてもらえるとよいと思っている。

次に「4 今後の取組（自主的審議に係る申し送り）」について、地域の機運醸成を次期地域協議会でも行っていくべきかについて協議を行う。資料 1-2 の右下の「4 今後の取組（自主的審議に係る申し送り）」の「② 移住促進の具体化について」意見を求める。

【滝澤委員】

今後の取組の部分で若い世代から多くの意見がもらえたとの話を受けて、もっと地域活動支援事業を若い人たちから使ってもらえるようにしてはどうかと思う。団体でないと提案できないため、これまでに提案してきた各種団体をうまく活用し、若い世代が楽しめる企画を計画してもよいと思う。現在は小学生が主の事業が多いため、中学生や高校生、さらに20代や30代の若者が、うまく地域活動支援事業を使えるような方法を考えてはどうか。毎年上越市の綱引き大会に地域で参加しているが、自分は今年度監督として参加した。参加者の中には20代後半の人もおり、自分が諏訪区に来た頃に中学生ぐらいだった子どもたちが、10年・15年経ちまた参加してもらっている。参加した若者から「このような活動はよいと思う。今度、友人を連れてくる」と言ってもらえた。そのため、綱引きのような活動の場を企画して若い世代を呼び込むことができれば、また何かに繋がってくると思った。またJカップは上越市全体の宣伝にもなるため、諏訪区は強いとの結果があれば、よい意味で何かしら呼べるとも思った。さらに若者が集まるきっかけになればよいと考えた。できるだけ若い人が楽しんで使えるような企画を地域活動支援事業の予算があるうちに考えてもよいと思う。

【星野会長】

地域協議会にて自主的審議のテーマとして、人口増加に取り組んできたわけであるが、申し送り事項として引き継ぎたい内容があれば意見してほしい。なお申し送り事項については、次期委員が実施の可否を判断するものであるため拘束力はない。次期委員より頑張ってもらいたいことや、今期協議会委員が取り組んできた人口減少問題を引き続き取り組んでもらえるよう引き継ぎ事項とするか否かについて意見を求める。

【松縄委員】

いろいろなことをするのもよいが、現在諏訪地区では大事な世代の人たちが亡くなっている。大事な世代の減少を食い止められるようにしたほうがよいと思う。例えば、保健師にもっと来てもらい健康問題等の話をしてもらってもよいと思う。また過去には、地域や集落の人が高齢者を訪問し、血圧測定や声掛け等を行っていたことがある。同じような活動を再開することは難しいかもしれないが、大事な世代

の人に欠けられることも問題である。人口を増やすことも大切であるが、まずは減少を食い止めていくことも大事だと思っている。過去に地域活動支援事業の補助金を活用して、公民館で万歩計を購入したことがあったようである。高齢者への貸し出しを目的とするとの話もあったが、貸し出しを行っていることを知っている人は少ない。自分も以前は知らなかった。地域の集まりに参加しなければ知らないことである。もう少し健康に力を入れてはどうかと考えている。先ほど話にあったグループワークの際、中学生よりどのような意見が出たのか教えてほしい。

【星野会長】

一言で言うと、今後、希望の持てる地域にしてほしいとの意見が出た。そのために、現在行っている様々な事業を継続してほしいとの意見があった。また子どもは少ないが今後も協力していきたいといった、中学生でありながらも非常に心強い意見があった。

【武田委員】

地域協議会では4年任期の2期にわたって協議し、「移住促進諏訪の会」が立ち上がった。しかしテーマ自体が非常に大きいために、なかなか前進することは難しい。また会員も自身の仕事があるため、やはり専属で動いてくれる人がいなければ、今ひとつ力が入らないように思っている。また全地域を対象にしているわけではないが、市独自で移住促進を進めている課がある。人口を増やしたいということは、どこの地域でも考えていることだと思う。移住促進に関する会議に、地域協議会・移住促進諏訪の会としてどんどん参加したほうがよいと思う。会議の場にて、他の地区ではどのようなことがあるのか、また諏訪区の状況も伝えてはどうか。会議で出た意見もフィードバックして、それを改めて諏訪区地域協議会で話し合うことも今までと違った活動内容であるためよいと思う。2期に渡って手間暇と経費をかけて取り組んできたため、移住促進諏訪の会にそのまま移行するのではなく、次期協議会委員がどのように判断するのかは別として、強制ではなく引き継ぎ事項として伝えたほうがよいと思っている。このまま終わらしてしまうのは非常にもったいないと思っている。次期地域協議会委員全員より、移住促進諏訪の会にも入ってもらえれば活動が活発化するとも思う。しかし各自仕事もあると思うため難しいと思う。かといって別の人に、外からの定住・移住者を増やすための活動をしてほしいと言

っても、新たに活動していくことは非常に難しいと思う。例えば諏訪の里づくり協議会にお願いしても受けてもらえないと思う。里づくり等の団体は町内会より推薦された人が多く、長くても6年程で代わっていると思う。長年活動している人はほとんどおらず、早い人は1年から2年で代わってしまう。そのため長い期間をかけて同じテーマを協議していけるのは、やはり「移住促進諏訪の会」のような別の団体だと思う。ただ別の団体が活動する場合、地域協議会としても関わっていかねればうまくいかない面も出てくると思う。協力しながら今後進めていったほうがよい。次期の自主的審議はどのようなかたちになるのかは分からない。ただ移住・定住・人口問題についての審議を自主的審議事項の中に組み込んでほしいと考えている。

【西嶋委員】

地域の子どもたちの人数がどんどん減ってきている。現在、諏訪小学校は全校で29人である。このまま何もしなければ児童数は増えずにどんどん減ってしまい、いずれは入学者が2人という年も出てくるとの話を聞いた。児童数が減少し前後の学年を合わせても5人程度と少なくなった場合、保護者から学校統合の話が出てくると思う。諏訪地区から小学校がなくなってしまう可能性は非常に高いと思っている。小学校のない地域に子どものいる家庭が引っ越してくることは考えられない。地域に小学校があり、「地区内の小学校に通わせれば子どもはすごく伸びる」「いきいきとして自分の力を発揮できるような地域であり、学校である」というような働きかけが必要だと思う。それができれば、自ずと子どもを連れた若い世代が諏訪区にも来てくれるようになると思う。以前「未楽来すわ」の代表が、小学校卒業まではとにかく諏訪地区で過ごしてもらえよう、父親が単身赴任等をして建物を安価で貸し出すようなシステムを考えれば何人かは移住を考えてくれるのではないかと話していた。子どもを増やすためには、やはり小学校の存続が大事だと思うため、存続するための働きかけが必要な気がする。市から保護者に対して、統合を匂わせるような話をしていると聞いている。

【星野会長】

確かに小学校のない地域には、子どものいる若い世代は来ないと思う。バス等で送迎する地域であっても、かなりの時間を要してしまうため尻込みすると思う。人

口を増やすための方策として小学校の存続を掲げ、そのためにはどうしたらよいかを考えるべきだと思う。子どもをあと 10 人程度増やすことができれば、何とか小学校を存続できそうとの話もある。そのため、定住しなくとも、ほかの地域より移住してもらうため、移住促進諏訪の会の方策の一つとして考えてもよいと思う。ただ一つの団体で行うことは難しいと思う。そのため地域協議会でも協議し、さらに地域協議会だけでも多分難しいと思うため、町内会長協議会や諏訪の里づくり協議会、PTA等、すべての団体と連携を取りながら進めていかなければならないと思う。そうしなければ人は入ってこない。人が入ってこなければ子どもが増えることもなく、当然小学校はなくなってしまうというように悪循環になってしまうと思う。

では意見をまとめる。今後は、各種団体等と連携して推進するとしてはどうか。客観的な言葉ではあるが、一つの団体では難しいため各種団体と連携して今後も推進し、地域の機運醸成を図っていくこととしてよいか。

(よしの声)

以上で次第2 議題「(1) 自主的審議事項」の「① 諏訪区内への移住促進策について」を終了する。

次に次第2 議題「(2) 協議事項」の「① 地域協議会だよりの配布方法について」に入る。この案件は昨年 11 月の地域協議会会長会議において、市の共生まちづくり課より協議依頼があったものである。事務局より説明を求める。

【藤井係長】

・資料2、別紙1（資料2）、別紙2（資料2）に基づき説明

【星野会長】

今ほどの説明に質疑を求める。

【川上副会長】

事務局に確認である。資料2に諏訪区での年間の必要経費が記載されている。経費の詳細について教えてほしい。紙代や印刷代といった、市が負担している経費ということか。

【藤井係長】

そのとおり。地域協議会だよりの発行に係る紙代と印刷代、また広報上越の発行

に合わせて業者に配送を委託している配達業務委託料ということである。

【川上副会長】

記載された必要経費を見る限りでは、それほど大きな金額の差があるようには思えない。正直、地域協議会自体が地域住民に認知されていないのが現状だと思う。地域協議会だよりを見るか見ないかは別としても、班回覧としてしまうとなおさら見ではもらえなくなってしまうような気がする。経費削減も大事だと思うが、資料記載程度の減額であれば、これまでどおりの全戸配布でもよいと思っている。4月以降は自分の町内会でも、回覧以外の全戸配布物が月に1回に変更になると聞いている。それに合わせて配布すれば労力としては変わらない。できることであれば、これまでどおり全戸配布としてほしいと思っている。

【星野会長】

事務局に確認である。市内には28区あるが上越市一律で班回覧か全戸配布かを決定するのではなく、諏訪区独自の配布方法を決定するということか。

【藤井係長】

そのとおり。

【星野会長】

地域協議会だよりは年4回発行しているが、4月・7月・2月は地域活動支援事業に関連した内容となっているため、各戸に必要なのか疑問に感じる。採択結果は周知したほうがよいとも思うが、2月の事前説明会の開催告知については全戸配布が本当に必要なのか疑問である。例えば年4回のうち、7月の採択結果と1月の会長年頭の挨拶は全戸配布として、4月の応募の手引きと2月の事前説明会の開催告知を班回覧とすることは可能なのか。

【藤井係長】

配布方法については、実際に配布している町内会の了解を得ることができれば変更可能である。また内容に応じて全戸配布または班回覧を使い分けることも選択肢の一つである。

【星野会長】

町内会としては、4月以降も月に1回は広報上越を全戸配布するため、その時に一緒に配布してもらえれば新たな負担はないと思う。ただ紙の枚数を数える等の手

間は生じる。だが多くても年4回程度と回数的にも多くはないため、それほど町内会長の負担軽減には繋がらないように思っている。改めて意見を求める。

【山岸 愛委員】

実際に班回覧、全戸配布のどちらがよいのか判別がつかないものの方が多い。正直、どちらも変わらないように思う。地域住民に見てほしいとの思いが強い内容については全戸配布もありだと思ふ。だが全戸配布をしたからといって、見るかどうかはなかなか現状として難しいと思ふ。川上副会長の発言のように地域協議会の認知度は低いため、何をやっているかわからないものを配布したところで、きっかけにはならないと思ふ。自分が見る側として考えた際に手に取るか否かは、やはり内容が充実しているもの、興味を引くものであれば見ると思ふ。例えば応募の手引きについても、案内だけを見て自主的に応募することは現状厳しいと思ふため、どうしても声掛けや誰かの紹介が必要になる。それであれば逆に班回覧をきっかけとして、町内会長より声かけをしてもらえるような働きかけをお願いしてもよいと思ふ。全戸配布として無言で各戸に配布されて終わりというよりは、有意義となる可能性もあると思ふ。全戸配布したうちの何パーセントが実際に内容を見ているのかを考えると、かかっている経費を見直せるようにも思ふ。そのように考えた場合、年4回すべてを全戸配布とはせず、年1回程度を地域協議会の活動周知といった内容で全戸配布とし、それ以外は班回覧としてもよいと思っている。

【星野会長】

地域活動支援事業に新規で提案する際、詳細が分からないこともあるとは思ふが、今後新しい団体が新規で提案してくることは少ないように思ふ。地域活動支援事業は10年ほど行われてきているため、提案を考えている団体は時期的な状況等を把握していると思ふ。応募の手引きは班回覧でもよいと思ふ。次に7月の採択結果については、区の配分額480万円を使うこともあり、どういったところに予算が使われているのかを地域住民に周知する意味でも全戸配布が必要だと思ふ。少なくとも480万円の予算が諏訪地区に配分されているため、周知することが義務だと思ふ。次に1月の会長年頭の挨拶については、1年間の活動報告や今後の方針等を周知する必要があると思っているため全戸配布がよいと思ふ。最後に地域活動支援事業の事前説明会の開催通知については、これまでに提案したことのある団体等には案内

を郵送しているため班回覧でよいと思っている。

採決を取る。すべて班回覧でよいと思う委員は挙手願う。

(0人挙手)

次に内容に応じて全戸配布がよいと思う委員は挙手願う。

(9人挙手)

では、内容に応じて全戸配布に決定する。次に、どの内容を全戸配布とするのかについて決定していく。7月と1月発行の内容を全戸配布、4月と2月発行の内容を班回覧でよいと思う委員は挙手願う。

(賛成多数)

諏訪区地域協議会としての考えは決定したが、この決定は町内会長連絡協議会の承諾を得られなければ成立しない。

【藤井係長】

4月と2月発行の内容については班回覧、7月と1月発行の内容については全戸配布を引き続き継続したいとの決定を、諏訪区地域協議会の意思として町内会長協議会に説明したいと思う。町内会としての承諾を得られなければ班回覧となる場合ことを了承してほしい。

【星野会長】

以上で次第2 議題「(2) 協議事項」の「① 地域協議会だよりの配布方法について」を終了する。

次に次第2 議題「(2) 協議事項」の「② 令和2年度地域活動支援事業 採択方針等の検討について」に入る。事務局より説明を求める。

【藤井係長】

・資料3に基づき説明

【星野会長】

令和2年度の採択方針等について、資料に沿って協議していく。最初に採択方針について意見を求める。

(発言なし)

特に意見がなければ、令和元年度と同様としてよいか。

(よしの声)

次に補助率「10分の10以内」についても、令和元年度と同様としてよいか。

(よしの声)

次に補助金の限度額「上限：なし、下限：5万円」についても元年度と同様としてよいか。

(よしの声)

次にヒアリングについてである。令和元年度は、委員からの質問に対して提案団体の代表者または担当者が回答した。スムーズな進行のため、提案団体に対して提案概要の説明は省略するよう伝えていたが、実際は提案内容等の説明があった方が理解しやすいため概要説明5分、質疑応答5分で行った。資料では、「共通質問について」は「提案状況に応じて共通質問の有無を決定してはどうか」と記載されているが具体的にはどういうことか。

【藤井係長】

今年度の審査では、配分額以上の事業提案があったため、状況を説明した上で削減可能な経費の有無等を共通質問とした。それについて本年度の審査後に評価検証を行った際には、ルール化するのではなく状況に応じて決定してはどうかとの意見があったと思う。

【星野会長】

提案団体に対して「事業概要の説明は提案書に代えて省略」と伝えたが、説明した団体がほとんどであったように思う。特に強調したいところを説明してもらおうということで、概要説明5分、質疑応答5分で妥当であったと思う。そのため「事業概要の説明は提案書に代えて省略」の記載は削除してはどうか。

(よしの声)

では資料右部記載の「事業概要の説明について」と「共通質問について」を記載のとおり実施することとしてよいか。

(よしの声)

次に「基本審査判定」についてである。令和元年度の状況の欄に「採択方針で不適合と判定した場合も、『共通審査基準』の採点を行った」とある。

【田中主事】

採点票には、最初に基本審査判定として地域活動支援事業として適当かを判断し、

次に諏訪区の採択方針に適合しているかを判断する二つの項目がある。基本審査判定において、地域活動支援事業に馴染まないとしたものについては、採点自体を行わない。だが諏訪区の採択方針に適しているかについては、不適合とした場合でも採点を行うこととしていた。

【星野会長】

基本審査判定は適合したが、採択方針で不適合とした場合も採点を行うということか。

【田中主事】

最初の「基本審査判定」で「×」をつけない限りは、その後の「共通審査基準」の採点までを行うことになる。また今年度より「基本審査判定」で「×」を付けた場合については、その後の「共通審査基準」による採点を「0点」として扱い、審査に参加した人数で平均点を算出する方法をとっていた。

【川上副会長】

要は個人の採点結果に応じてとなる。個人の採点で不適合とした場合の話である。

【星野会長】

では、「基本審査判定」についても令和元年度と同様としてよいか。

(よしの声)

次に「採択方針への適合判定」についても、令和元年度と同様としてよいか。

(よしの声)

次に「共通審査基準の項目と配点」については、各項目それぞれ5点となっている。これについても、令和元年度と同様としてよいか。

(よしの声)

次に「募集期間」についてである。令和元年度は「4月1日(月)から4月22日(月)まで」とした。令和2年度は「4月1日(水)から4月24日(金)」を候補日としている。3月中に事前説明会があるため準備する期間は十分にあると思う。募集までに3週間以上あれば十分提案準備は可能であると思っている。令和2年度は候補日のおりとしてよいか。

(よしの声)

次に「その他」についてである。「次の場合、審査を自粛する」ということで、「地

域協議会委員が提案団体の長を務める場合」、「『移住促進諏訪の会』が提案する事業について、地域協議会委員がその役員である場合」としている。これについても、令和元年度と同様としてよいか。

(よしの声)

以上ですべての項目についての協議が終了した。最後に全体についてなにか意見等あるか。

(発言なし) 事務局より、これまでの審議内容についてまとめるよう願う。

【藤井係長】

基本的には、全体的に変更なしと決定した。「ヒアリング」の方法については今年度実際に実施したとおり、概要説明と質疑応答それぞれを行うとの判断であった。以上の内容にて令和2年度は審査採択を行うことを確認してほしい。

【星野会長】

令和2年度の採択方針等について、今ほどの事務局のまとめのとおりとしてよいか。

(よしの声)

以上で次第2 議題「(2) 協議事項」の「② 令和2年度地域活動支援事業 採択方針等の検討について」を終了する。

次に次第2 議題「(2) 協議事項」の「③ 地域協議会活動報告会について」に入る。事務局より説明を求める。

【藤井係長】

・資料4に基づき説明

【星野会長】

今ほどの説明に質疑を求める。

(発言なし)

では活動報告会について、資料のとおり開催するとしてよいか。

(よしの声)

以上で次第2 議題「(2) 協議事項」の「③ 地域活動支援事業活動報告会について」を終了する。

次に次第3 その他「(1) 次回の開催日の確認」について、事務局に説明を求め

る。

【藤井係長】

- ・ 次回協議会について説明

【星野会長】

時間は少なくとも、中身のあるものにしたいと考えている。また同じ内容で何回も地域協議会を開催しても意味がないため、活動報告会と同日の開催でよいと思っている。

— 日程調整 —

- ・ 次回の協議会：3月4日（水）午後6時30分から 諏訪地区公民館 集会室
- ・ 内容：協議事項：（仮）次期委員への申し送り事項について

【星野会長】

実質、3月4日が最後の地域協議会になる可能性があるため、各自出席を願う。

最後に「(2) その他」に入る。何かあるか。

（発言なし）

- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部自治・地域振興課中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690（直通）

E-mailchubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。